

令和8年度 第1回総合教育会議

令和8年5月14日（木）
午前10時30分から11時30分まで
県庁東館5階特別会議室

次 第

1 開会

- (1) 知事挨拶
- (2) 教育長挨拶

2 議事

- (1) 高校教育改革実行計画の策定（協議）
- (2) ラーケーションの推進（報告）

3 閉会

<配布資料>

- 資料1 高校教育改革実行計画策定委員会の設置について
- 資料2 高校教育改革実行計画策定委員会設置要綱（案）
- 資料3 ラーケーションの推進

令和8年度 第1回総合教育会議 出席者名簿

(敬称略)

役 職	氏 名	備 考
知 事	鈴 木 康 友	対面
教 育 長	前 澤 綾 子	対面
教育委員	小野澤 宏 時	オンライン
	天 城 真 美	対面
	飯 村 幸 生	対面
	渡 村 マ イ	対面
	川 田 善 正	対面

令和8年5月14日

高校教育改革実行計画策定委員会の設置について

(高校教育課)

1 要旨

本県の高校教育改革実行計画を策定するため、高校教育改革実行計画策定委員会（以下「策定委員会」）を設置する。

2 経緯

文部科学省は、本年2月に高校教育改革に関する基本方針、「2040年に向けたN-E. X. T.（ネクスト）ハイスクール構想」を発表した。本県においても、同構想に基づく実行計画を策定するため、策定委員会を設置する。

3 策定委員会

(1) 委員

分類	役職	氏名	備考
産業界	ヤマハ発動機(株)執行役員	江頭綾子	
	静岡商工会議所会頭(静岡ガス(株)代表取締役)	岸田裕之	
	沼津商工会議所会頭(沼津信用金庫会長)	紅野正裕	
学識経験者	(株)日本総合研究所プリンシパル	東博暢	
	静岡県地域構想推進会議コーディネーター(予定)	西原茂樹	
	ふじのくに地域・大学コンソーシアム理事 (静岡理工科大学学長)	木村雅和	
知事部局	健康福祉部長	高須徹也	
	経済産業部長	齊藤卓己	
教育委員会	教育長	前澤綾子	委員長

(2) オブザーバー

分類	役職	氏名	備考
高校	校長協会会長	織田敦	
学識経験者	協議の進行に応じて、県内大学教員に依頼(工学、情報、海洋など)		

※その他、関係部局、政令市などからの参加も検討

4 スケジュール

名称	時期	内容
総合教育会議	5月14日	策定委員会を設置
第1回委員会	6月9日	キックオフ(素案の提示)
第2回委員会	8月頃	計画の策定
第3回委員会	11月頃	計画の策定
総合教育会議	12月頃	計画の協議・調整

高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)【概要】 ～2040年に向けた「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想」～

(別添1)

New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools

1. グランドデザインの背景・必要性

- ✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展
2040年には、**少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化**が一層深刻化
→現在の人材供給トレンドが続けば、**労働力需給ギャップ**が発生
(事務職は余剰、AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足)
- ✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるか分からない
→生徒それぞれの**多様な個性やニーズ、興味・関心に応じた学びを生かした自己実現**を支え、**生徒の可能性を広げ能力を伸ばす**
→全ての高校生が**家庭の経済状況等に左右されることなく、希望する大学等への進学や就職等**をし、それが**個人の幸福**につながり、ひいては、**我が国の経済・社会の基盤を強いもの**としていくことにつながる

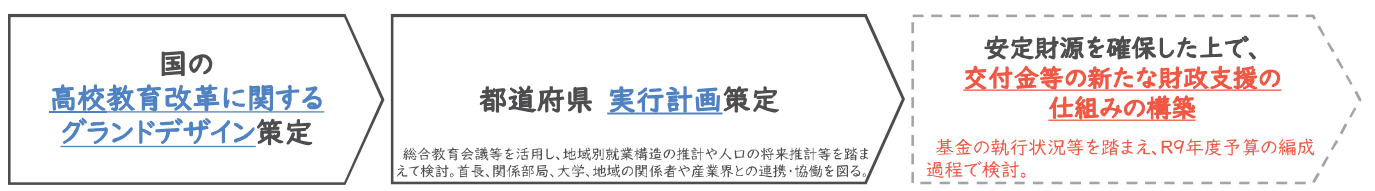


2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点1 不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長	視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成	視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保
学びの在り方の転換 (New Transformation) ✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現 ✓ スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえた教育活動の改善、公表 ✓ 高校教育と一貫した大学教育改革(主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等)	最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化 (New Excellence) ✓ 探究・文理横断・実践的な学び、STEAM教育、産業界と協働した専門高校の学びの充実 → 理数・文系的素養やAIを使いこなす力を身に付け、社会で活躍するロールモデルを体感 ✓ 各高校の特色化・魅力化 → 学科構成の見直し、専門高校の機能強化・高度化、グローバル人材の育成 → 「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成	学ぶ機会・アクセスの確保 (New Education) ✓ 全国どこにいても多様で質の高い学びを保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す (地理的アクセスの確保、都道府県の実情等に応じた学校配置・規模の適正化、小規模校を含む遠隔授業等の推進) ✓ 通信制高校の教育の質の確保・向上 ✓ 不登校生徒への学習支援、特別支援教育や日本語指導が必要な生徒への教育の充実

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

3. N-E.X.T.ハイスクール構想の中核となる高校支援



※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校(改革先導拠点)を創設。

新しい学校のイメージや取組例

専門高校の機能強化・高度化 (アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等)	普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化 (文理の双方の素養を有する人材の育成等)	地理的アクセス・多様な学びの確保
(学校のイメージ) 地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校 (取組例) ✓ ビジネス経験の必修化 ✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践 ✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保	(学校のイメージ) 文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校 (取組例) ✓ 実社会につながる生きた授業の実践 ✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備 ✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築	(学校のイメージ) 学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校 (取組例) ✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保 ✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供 ✓ 他の学校種との連携の充実

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

2040年までに達成を目指す目標

- 【職業教育の高度化・魅力の強化関係】**
・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校: 100%
・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準
- 【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】**
・文理横断的な学びに取り組む普通科高校: 100%
・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合: 同程度
- 【多様な学びの確保関係】**
・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

高校教育改革実行計画策定委員会

本県の高校教育改革実行計画を策定するため、高校教育改革実行計画策定委員会を設置する。

実施体制

1 委員

区分	役職	氏名	備考
産業界	ヤマハ発動機(株)執行役員	江頭綾子	
	静岡商工会議所会頭	岸田裕之	静岡ガス(株)代表取締役
	沼津商工会議所会頭	紅野正裕	沼津信用金庫会長
学識経験者	(株)日本総合研究所プリンシパル	東博暢	
	静岡県地域構想推進会議コーディネーター(予定)	西原茂樹	
	ふじのくに地域・大学コンソーシアム理事	木村雅和	静岡理工科大学学長
知事部局	健康福祉部長	高須徹也	
	経済産業部長	齊藤卓己	
教育委員会	教育長	前澤綾子	委員長

2 オブザーバー

区分	内容
高校	校長協会
学識経験者	協議の進行状況に応じて、県内大学の教員に依頼(工学、情報、海洋など)

※その他、関係部局、政令市などからの参加も検討

スケジュール

名称	時期	内容
総合教育会議	5月14日	高校教育改革実行計画策定委員会を設置
第1回委員会	6月9日	キックオフ(素案の提示)
第2回委員会	8月頃	計画骨子の検討
第3回委員会	11月頃	計画の策定
総合教育会議	12月頃	計画の協議・調整

高校教育改革実行計画策定委員会設置要綱（案）

（設置）

第1条 本県における高校教育改革実行計画を策定するために、高校教育改革実行計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第2条 委員会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 高校教育改革実行計画策定に関する事項
- (2) その他上記に係る事項

（組織）

第3条 委員会は別表1に定める委員長及び委員をもって構成する。

2 委員長は、別表1に定める委員のほか、オブザーバーとして関係者に参加を求められることができる。

3 委員の任期は、令和9年3月31日までとする。

（会議）

第4条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

（総合教育会議における協議・調整）

第5条 高校教育改革実行計画の策定にあたり、知事及び教育委員双方の意見を反映するため、委員会で協議した事項は、総合教育会議で協議・調整する。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、高校教育課において処理する。

（委任）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和8年 月 日から施行する。

別表 1

高校教育改革実行計画策定委員会

役職名	職氏名
委員	ヤマハ発動機(株)執行役員 江頭綾子
委員	静岡商工会議所会頭 岸田裕之
委員	沼津商工会議所会頭 紅野正裕
委員	(株)日本総合研究所プリンシパル 東博暢
委員	静岡県地域構想推進会議コーディネーター(予定) 西原茂樹
委員	ふじのくに地域・大学コンソーシアム理事 木村雅和
委員	健康福祉部長
委員	経済産業部長
委員長	教育委員会教育長

✓要 旨

- ・こどもたちの多様な学びを進め、家族で過ごす機会を増やすため、教育現場への「ラーケーション」の導入に取り組んでいる

✓ラーケーションとは

- ・学びの「ラーニング(learning)」と休暇の「バケーション(vacation)」を組み合わせた造語
- ・こどもが保護者などと一緒に、平日に校外(家庭内や地域等での活動)で体験・探究の学びを自ら企画して実行

✓見込む効果

- ・こどもの多様な学びの機会を充実
- ・家族と一緒に過ごす時間の増加
- ・保護者の休暇取得を促進



ラーケーション推進② 県内利用者の声



事例① ライブを鑑賞し、音楽関連の仕事への興味を深める。

将来の進路として、音楽や演劇に関わりたいという思いがあり、ラーケーションを利用して、母と一緒に音楽ライブを鑑賞しました。

ライブでは、知らない曲もありましたが、アーティストの思いが伝わり、鳥肌が立つほど感動しました。また演出の素晴らしさにも圧倒され、裏方も含めて、多くの方が関わってライブが運営されていることが、よく分かりました。音楽関連の仕事に対する興味が高まりました。次は演劇の舞台を鑑賞するために、ラーケーションを活用したいと思います。

事例② 裁判傍聴などを通じて、弁護士の仕事について知る

弁護士の仕事に興味があり、2日間にわたり、ラーケーションを利用しました。10月に母の職場の方が主催する弁護士セミナーに参加させていただき、弁護士の仕事について学びました。証拠集めや依頼人への対応など苦勞も多いとのこと、想像と違う面もありましたが、弁護士への憧れは強くなりました。11月には裁判所で刑事裁判を傍聴しました。検察の方が求刑を述べるシーンが、ドラマのようで印象的でした。

ラーケーションを通じて、弁護士の先生から、社会を深く知ること、人と誠実に向き合うことが大切とのアドバイスをいただきました。今後の自分への課題にしていきたいと思っています。



事例③ 家で、家族と将来のことについて話し合う

久しぶりに家族そろって朝食を食べ、最近の自分のこと、家族のことについて話し合うことができました。その後も手伝いをしたりして1日家族で過ごす時間がとれて、自分の興味のあることや中学でやりたいことなどについても話ができて良かったです。

ラーケーションが拓くウェルビーイング

家族と地域で共に育むラーケーションで、県民が心身ともに満たされる日々へ！

